

## 献呈の辞

11月から雪が降り、寒さの厳しい冬でしたが、ようやく桜の便りも届くころとなりました。専修大学では新しい学士課程の教育が3年目に入り、神田キャンパスに誕生する新学部、文学部の新学科についても検討が重ねられ、未来に向けて羽ばたく準備が整いつつあります。また、1966年に設立された文学部にとって今年度は50周年という節目であり、数々の記念行事が催されて、それぞれに大きな成果を挙げました。そのようななか、今年も3月を迎え、退職される先生がたをお送りする季節がやってきました。

専修大学文学部では、2017年3月末日をもって、日本文学文化学科の石黒吉次郎教授、哲学科の大庭健教授、菊地健三教授、歴史学科の荒木敏夫教授、人文・ジャーナリズム学科の鐘ヶ江晴彦教授の5名の先生方が定年により退職されます。

石黒吉次郎教授は、東京大学文学部を卒業された後、東京大学大学院人文科学研究科に進学して日本文学の研究を深められました。その後、東京大学で助手を務められたのち、1975年に専修大学文学部に着任され、42年の長きにわたって在職されました。

石黒先生の専門分野は、日本文学のなかでも中世の芸能と文学です。世阿弥の能楽論の研究から始められ、謡曲、芸能、説話などについて多くの著書や研究論文を發表されています。学内では、就職指導委員

会委員・学生部委員・学生部次長・国文学科長・体育部委員などを務められました。文学部の歴史の大半を経験してこられた先生には、50年史の作成にあたってもお世話になりました。

大庭健教授は、東京大学文学部を卒業され、東京大学大学院人文科学研究科に進学して倫理学の研究を深められました。1979年に専修大学文学部に着任され、38年間在職されました。

大庭先生の専門分野は倫理学、分析哲学であり、「他者」「主体」「権力」「責任」などをめぐる数々の著書や研究論文を発表してこられました。2015年からは日本倫理学会の会長という重責を担っておられます。学内では2004年から2014年まで図書館長を務められ、出版企画委員会の委員長や委員として、専修大学からの知の発信に尽力されました。また、教授会ではいつも、広い視野に立ち深慮に富んだ独特のご発言をいただいたことが、ありがたく思い出されます。

菊地健三教授は、専修大学文学部を卒業された後、専修大学大学院文学研究科に進み、哲学の研究を深められました。1981年に博士課程の単位を取得された後、専修大学経済学部に入職され、2010年からは文学部に所属されています。在職年数は通算36年です。

菊地先生の専門分野は、カント哲学、芸術学で、美術批評・著書・翻訳・学術論文など幅広い業績を重ねておられます。2015年には、カントの「自然の形而上学」と「人倫の形而上学」、すなわち「物質」の領域と「魂」の領域との関係を考えるにあたって重要な手がかりとなる「動力学」についての著作『カントと動力学の問題』（晶文社）を上梓されました。

荒木敏夫教授は、早稲田大学教育学部をご卒業になり、早稲田大学大学院文学研究科修士課程、東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程で日本史の研究を深められました。その後、愛知教育大学での勤務を経て1987年に専修大学文学部に着任され、30年間在職されました。

荒木先生の専門分野は日本古代史で、特に古代の王権について多くの著書・学術論文を發表されています。学内では2002年より文学部長を2期、2007年からは副学長を務められました。文学部創立50周年記念企画実施委員会も、委員長の荒木先生のおかげで各種企画を成功させることができました。

鐘ヶ江晴彦教授は、東京大学教育学部を卒業後、東京大学大学院教育学研究科に進んで教育学の研究を深められました。その後、1979年に専修大学文学部に着任され、38年在職されました。

鐘ヶ江先生のご専門は教育社会学、解放社会学で、人権と同和問題、辺野古新基地建設反対運動の研究などに力を注いでこられ、数多くの著書・学術論文を發表されています。過去に日本解放社会学会会長を、現在は部落解放・人権施策確立要求東京実行委員会会長と東日本部落解放研究所理事長を務めておられます。学内では、教職課程協議会委員長、人文学科長、セクシュアル・ハラスメント防止委員会委員長などを歴任されました。

文学部50年の発展に大きく寄与してこられた5名の先生がたに対し、惜別の思いは尽きませんが、今後のますますのご健勝を願いつつ、深い感謝の気持ちを込めて献呈の辞とさせていただきます。

2017年3月

専修大学文学部長 廣 瀬 玲 子